

〔江戸總鹿子^六〕諸職名匠諸商人

伽羅油屋 神明前 大好庵 門前町 林喜左衛門 宇田川町 同法喜 ばくろ町

傳兵衛 同所 伊兵衛

〔國花萬葉記^{七下}武藏〕江府名匠諸職商人

伽羅油屋 大好庵^{神明前} 林法喜^{宇田川丁} 同喜左衛門^{神明門前丁} 傳兵衛^{ばくろ丁}

伊兵衛 同所

〔元治^{改正}京羽津根^三〕諸職諸商賣

伽羅油所 四條柳馬場東 下村山城

〔江戸^{名物}狂詩選〕下村山城油 本兩替町

三都無類山城製、貴賤珍重六十州、貯得道中經幾日、不融不替一番油

〔嬉遊笑覽^一容儀^下〕鹽尻に、今男女盛に五味子を用ひて髪をかたむ^略、^中かくいへりしも廢れて今は、

久しく成ぬれど、近頃まで油店の看板に、かづらの束ねたるを置たりしが、それもいつか皆うせ

て、唯兩替町なる下村の店にのみ、もとの儘におしろいの看板の上にのせて有り、そのあるじに

尋ねければ、今も稀にはこれを求めにくるもの有とぞ。

髮油雜載

〔屠龍工隨筆〕中古までは鬢附なく、髪をゆふには、膠鯉煎とて鯉をせんじて、^中にははにまたるもの

をぬり付たりといへど、鯉を煎じたるものなれば、さこそなまぐさかりぬべし、つれづれ草に、鯉

を喰ふ日は、鬢そ、げすともいひ、^中にははにも作るといふ二事を合せて、好事の者の言出せる説

にや、

〔諸家奥女中袖鏡〕身持たしなみやうの事
一老たるも若きも、身持をたしなみ候事、女たる、心得なり、^略中 髪に油を付るにも、さのみぬれぬ